

# 第8次芦屋すこやか長寿プラン 21 策定に向けた 関係団体等調査結果報告

## 1. 実施概要

第8次芦屋すこやか長寿プラン 21 を策定するにあたり、医療関係者や介護保険事業関係者等からみた課題・問題を把握するため、アンケート調査を実施しました。

- |       |                                                                                                                                                                      |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ○実施期間 | : 平成 29 年 6 月                                                                                                                                                        |
| ○対象者  | : (1) 芦屋市医師会・芦屋市歯科医師会・芦屋市薬剤師会<br>(2) 医療機関 (市内病院 3 か所)<br>(3) 芦屋市高齢者生活支援センター<br>(4) 芦屋市ケアマネジャー友の会<br>(5) 居宅介護支援事業所 (市内事業所 29 か所)<br>(6) 芦屋市介護サービス事業者連絡会 (部会単位で調査票を送付) |
| ○調査方法 | : アンケート調査<br>* なお、介護保険事業に関わる「芦屋市ケアマネジャー友の会」及び「芦屋市介護サービス事業者連絡会」については、併せてヒアリングも実施                                                                                      |

## 2. 回答結果まとめ

得られた回答結果から課題を整理しました。

### (1) 芦屋市医師会・芦屋市歯科医師会・芦屋市薬剤師会

#### ① 医療・介護連携を推進するための会議や情報交換の場の検討・実施

医療・介護連携が進んでいますが，会議や情報交換の場がまだ十分でないという意見があがっています。また，医師会等との連携にとどまらず，今後は個々の医師・歯科医師・薬剤師と介護職との連携を進めていく必要があります。

##### 【検討の方向性】

- 三師会間，個々の医師等と介護職間における連携のあり方と推進

#### ② 認知症の方に対する気づきと関係機関へつなぐ仕組みの整備

認知症を疑われる人で認知症専門の医療機関を受診しない人が増えているのではないかと意見があがっています。今後も引き続き早期発見・早期対応する仕組みを整備していく必要があります。

##### 【検討の方向性】

- 認知症への対応が可能な一般医院や人材の育成の支援
- 高齢者生活支援センターの窓口機能・相談機能の強化

#### ③ 芦屋市地域発信型ネットワークの機能強化

芦屋市地域発信型ネットワークは地域課題を把握するために重要ですが，ネットワークの機能が十分でないという意見があがっています。

##### 【検討の方向性】

- 発見した地域課題を，ネットワークを通じて共有し，解決できているかの検証

## (2)医療機関(病院)

### ① 各機関別に、連携できている点とできていない点を整理して課題を共有することが必要

医療機関と各関係機関との連携上の課題は、各関係機関によって異なります。連携をいっそう深めていくためには、各関係機関が情報共有し、現状では、どこまで連携できていて、どこからできていないかを共有する場を設定する必要があります。

#### 【検討の方向性】

- 連携上の課題について、制度に関わること、意思疎通に関わることなど種別で整理して共有
- 課題や解決策を検討・共有する場の設定

### ② 認知症の方に対する気づきと関係機関へつなぐ仕組みの整備

認知症予防、在宅支援、早期発見・早期対応、相談窓口、退院調整などに対する意見があがっています。これらに対応するため、気づきから関係機関につなぐ仕組みを整備する必要があります。

#### 【検討の方向性】

- 早期発見・早期対応のための地域住民による見守りの強化
- 高齢者生活支援センターの窓口機能・相談機能の周知徹底

### ③ 在宅生活継続のための本人の意思尊重、介護者支援の強化

在宅介護の考えが本人・家族に浸透していないという意見があがっています。在宅介護のためには、本人の意思決定支援（在宅希望かどうか）や支援者の医療知識の向上が必要という意見があがっています。

#### 【検討の方向性】

- 本人の意思決定支援、介護者支援の具体的な方法と実現方法

### (3) 高齢者生活支援センター

#### ① 地域包括支援センター業務や地域支援事業における個々の業務や事業に応じた課題解決の検討

地域包括支援センター業務や地域支援事業について、現状の様々な問題点や課題があがっています。それぞれ、課題を検討し、緊急度や効果の大きさなどから優先順位をつけて、課題解決を進めることが必要です。

##### 【検討の方向性】

- 地域包括支援センター業務や地域支援事業における課題と解決策の検討

#### ② 自主的な介護予防活動を普及するための方策の検討

いきいき百歳体操のPR、行政職や専門職のボランティアの推進、自主的な活動に関わる教育、自主活動グループづくりの担い手育成の研修、トレーナー費用の補助など、自主的な介護予防活動を普及するためアイデアが多くあがっています。また、地域包括支援センターだけで普及するには限界があると感じるとの意見があがっているため、介護予防活動に関わる機関・団体で普及について検討する必要があります。

##### 【検討の方向性】

- 介護予防活動が自主的に実施されるよう、介護予防活動に関わる機関・団体で普及方法を検討

#### ③ 地域ケア会議を活性化するための改善点の整理

会議準備の負担、事例提供の負担など、ポジティブプランのための研修の必要性が指摘されています。地域ケア会議を活性化するため、改善点を整理して、実施していくことが必要です。

##### 【検討の方向性】

- 地域ケア会議が活発化するよう、課題や改善点を検討

#### (4) 芦屋市ケアマネジャー友の会

##### ① 本市の人口規模を生かした医療・介護連携の仕組みづくり

本市の人口規模から顔の見える関係性が一部できていますが、組織ごとの関係では十分ではないという意見があがっています。

###### 【検討の方向性】

- 組織ごとに顔の見える関係を構築していく仕組みの検討

##### ② 地域ケア会議の位置づけと自立支援に資するケアプランの概念の啓発

自立支援に資するケアプランといったことを、単なる機能向上の概念として捉えることのないようにすることが求められるという意見があがっています。また、この観点での地域ケア会議の意義を明確にしていくことが必要という意見があがっています。

###### 【検討の方向性】

- 地域ケア会議の位置づけと自立支援に資するケアプランの概念の見直し

#### (5) 居宅介護支援事業所

##### ① 往診や緊急対応、夜間対応、看取り対応等における医療・介護連携の強化

往診や緊急対応、夜間対応、看取り対応等で連携が必要という意見があがっています。

###### 【検討の方向性】

- 往診や緊急対応、夜間対応、看取り対応等における具体的な連携方法

##### ② 住民主体の介護予防の推進のための具体的な方法の検討・整理

歩いていける距離で、開催している場があることという意見をはじめ、多くの具体的なアイデアがあがっています。このようなアイデアを検討・整理する必要があります。

###### 【検討の方向性】

- あがっている具体的なアイデアの実現方法の検討

##### ③ 在宅生活継続のための具体的な支援の検討・整理

生活全般について把握した上での多種多様な支援などの意見をはじめ、多くの具体的なアイデアがあがっています。このようなアイデアを検討・整理する必要があります。

###### 【検討の方向性】

- あがっている具体的なアイデアの実現方法の検討

## (6) 芦屋市介護サービス事業者連絡会

### ① 医療介護連携の仕組みづくり

顔の見える関係性ができている事業者がある一方で、十分ではない事業者もあるという意見があがっています。

【検討の方向性】

- より効果的な連携方法の検討

### ② 住民主体の介護予防を推進するための具体的な方法の検討・整理

リハビリテーション専門職の活用，介護予防のリーダー養成，自治会・老人会等地域団体との連携などの具体的なアイデアがあがっています。このようなアイデアを検討・整理する必要があります。

【検討の方向性】

- あがっている具体的なアイデアの実現方法の検討

### ③ 連携・ネットワークで重要な役割を担う事業所の確保や人材の育成

連携・ネットワークで要になる事業所や人材の育成支援が必要という意見があがっています。

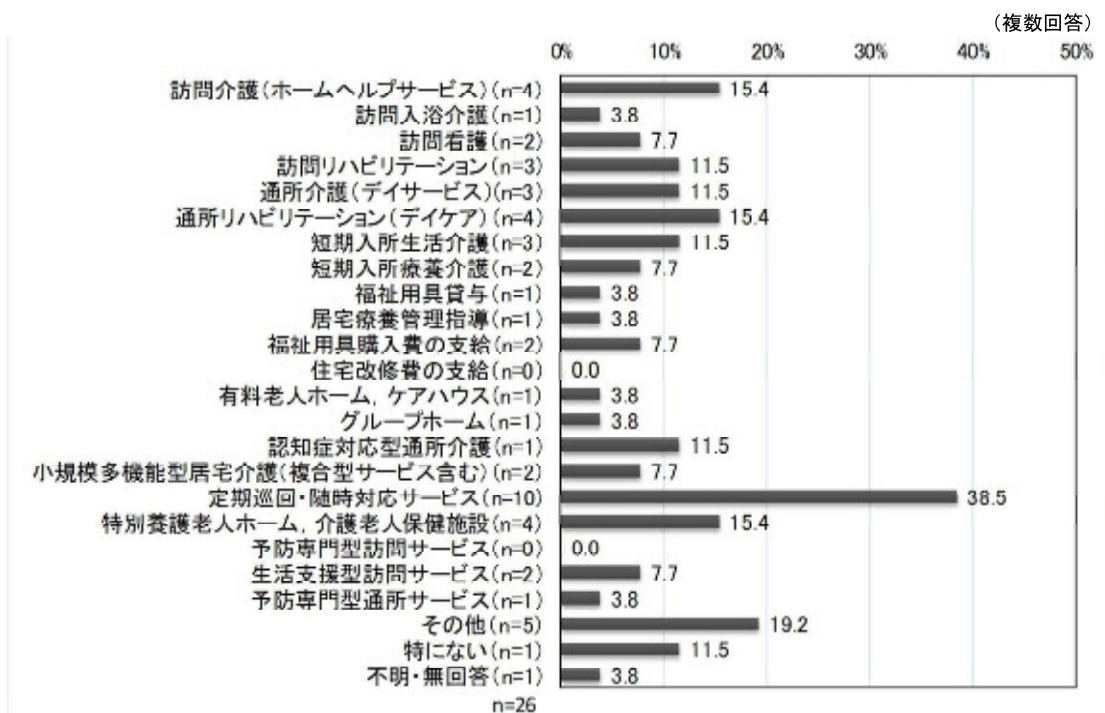
【検討の方向性】

- 連携・ネットワークで重要な役割を担う事業所の確保や人材の育成の検討

## (7)その他

### ①今後3年間で必要と考えるサービス

「定期巡回・随時対応サービス」、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」、「通所リハビリテーション（デイケア）」、「特別養護老人ホーム、介護老人保健施設」が多くなっています。

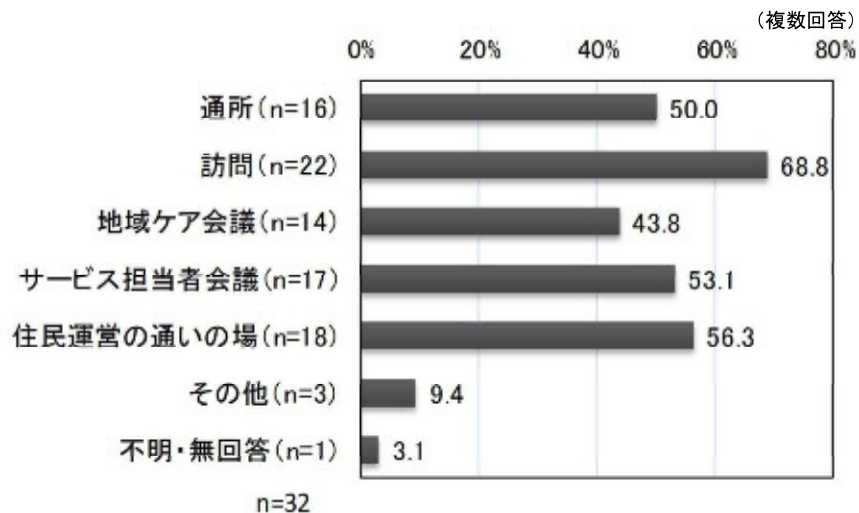


質問対象： 居宅介護支援事業所、ケアマネジャー友の会、介護サービス事業者連絡会、高齢者生活支援センター

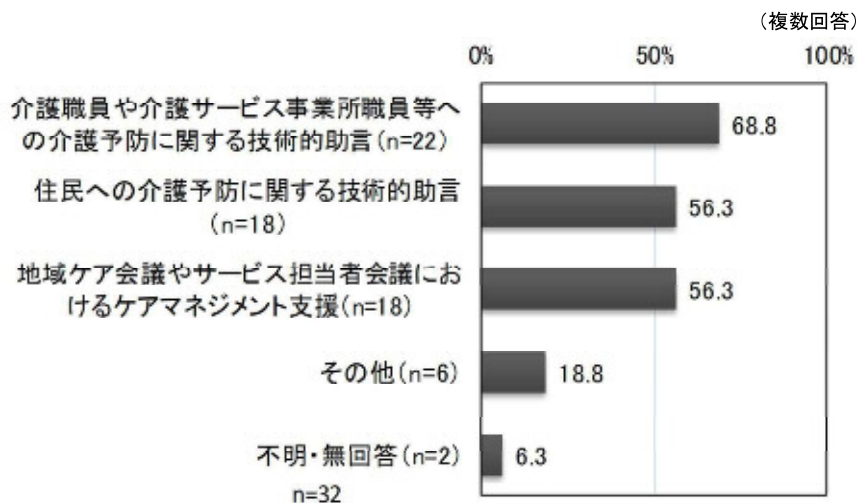
②地域リハビリテーション活動支援事業における活用の場、及び活用の方法

活用の場では、「訪問」が68.8%、活用の方法では「介護職員や介護サービス事業所職員等への介護予防に関する技術的助言」が68.8%で多くなっています。

【活用の場】



【活用の方法】

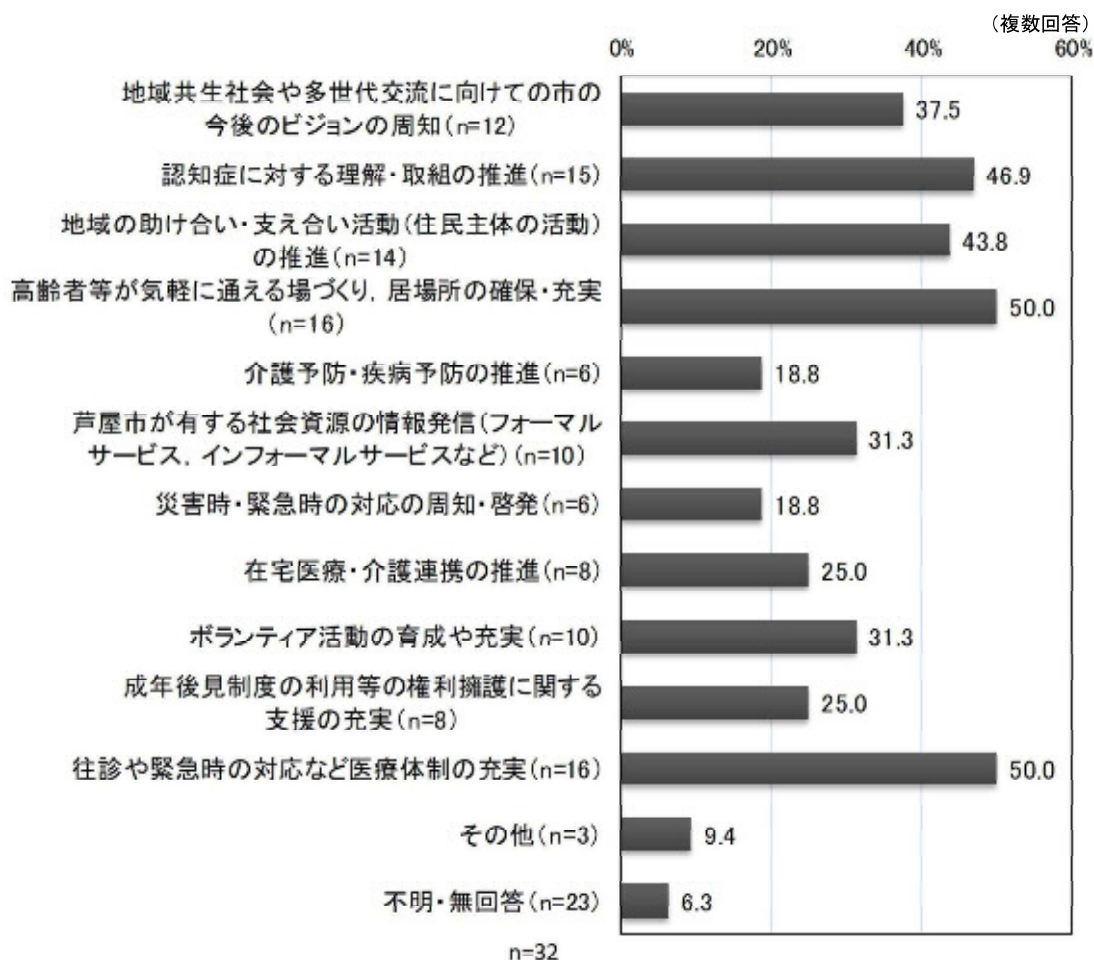


質問対象： 全調査



### ③取り組むべき市の施策

「高齢者等が気軽に通える場づくり, 居場所の確保・充実」(50.0%) や「往診や緊急時の対応など医療体制の充実」(50.0%) が多くなっています。



質問対象： 全調査

## 参考資料

### (1) 芦屋市医師会・芦屋市歯科医師会・芦屋市薬剤師会

質問分野	回答結果
医療・介護連携	
課題	<p>本人の動向(死亡, 入院, 施設入所など)が報告されないと, 訪問予定日に不在のことがあり困ったことがあった。</p> <p>要介護認定者以外の方(要支援含む), 障がい者相談支援事業所より依頼された方, 心療内科的疾患の方などの, スムーズな連携にとって以下のことが課題。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引きこもり等の理由で訪問診療の依頼を受けた場合, 医療保険対象外となるケースがあるため, 状況, 背景等の詳細な情報の入手。</li> <li>医師の診断書が必要なことなどを本人に予め知ってもらうこと。</li> </ul>
工夫していること	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人宅に介護ノート(多職種の方々が記入する)が用意されていて, 最新状況が分かる。</li> <li>芦屋市医師会との医科歯科連携の他, 介護職関係者とも多職種連携を図る為, 「介護現場における口腔ケアの重要性」について講演会を行った。</li> <li>芦屋市医師会・薬剤師会との連携事業で「芦屋市在宅医療推進協議会」を行った。(平成 28 年度, 通算 11 回)</li> </ul>
医療・介護連携の程度とその理由	<p>「まあまあできていると思う」 (理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なんとかではあるが, 孤独死を迎える人の数が急激に増えているとは思わないから。</li> <li>少しずつではあるがケアマネジャー, 介護施設が顔の見える距離になってきているから。</li> </ul> <p>「あまりできていないと思う」 (理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>意見交換会や情報交換会が少ない。または知る機会がない。</li> </ul>
認知症	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症を疑われる人でも認知症専門の医療機関を受診しない人が増えているのではないか。</li> <li>芦屋市には認知症専門の医療機関がない為, 今後対応可能な一般病院を育成していく必要がある。(定期的なセミナーの開催等)</li> <li>認知症を有する人が安心して徘徊できる街づくり。</li> <li>高齢者生活支援センターは認知症サポートの中心的役割を担うセンターであり, 人員の増員により少しでも早く多くの認知症予備軍の方にかかわるようにして欲しい。</li> <li>(若年性認知症について)高齢者がケアマネジャーに相談できるような体制づくりが必要。</li> </ul>
連携・ネットワーク	
	<p>芦屋市地域発信型ネットワークの活動は, 地域の問題を抽出する場としては重要。ただし, ネットワークの機能として十分ではないように思う。</p>

(2)医療機関(病院)

質問分野	回答結果
医療・介護連携	
診療所	<ul style="list-style-type: none"> <li>紹介・逆紹介, 外来検査など連携が行われている関係機関もあるが, 紹介がない機関もあり, 連携体制としては十分ではないと思う。</li> </ul>
高齢者生活支援センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>芦屋市は高齢者生活支援センターを利用して介護保険の申請と支援開始ができるため, 早期から連携をとることができている。</li> <li>介護保険を利用していない方の情報提供をお願いしたが, 本人同意がないため情報収集ができず困った。</li> </ul>
居宅介護支援事業所(ケアマネジャー)との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>インフォームドコンセントの際に同席してほしい。</li> </ul>
介護サービス事業所	退院前カンファレンスで情報共有ができて, 退院後は連携をとることがない。
行政	高齢介護課・芦屋病院定例会を開催し情報共有している。しかし, それ以外の事例などは関与する事項がない。
認知症の方への支援	
医療機関(回答者)	認知症予防のための離床活動とボランティア活動を実施。今後在宅支援の関係者とも活動を広げられる環境が必要。
診療所	認知症初期集中チームとの密な連携により, 在宅支援を実施していくことが必要。
地域住民	早期からの受診が望ましく, 地域住民への啓発とともに, 相談機関のPR強化が必要。
高齢者生活支援センター	<p>相談窓口として重要な機関であるため, 地域住民への周知が必要。</p> <p>入院日数が限られているため, 退院調整をできる限り早く実施するよう連携を図る必要がある。</p>
居宅介護支援事業所	ケアの面で, 内服管理, 内服介助は重要であるため, 簡易懸濁法なども含め薬剤師の関与をケアプランに入れてもらいたい。フレイル, サルコペニアの観点から, 管理栄養士の関与を検討してもらいたい。
行政	救急隊や警察など, 認知症の方にアクシデントが起こった際に関わりが深くなる機関との情報共有などの方法を検討していただきたい。
在宅生活継続のための支援	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護支援者の医療知識の向上が必要。</li> <li>独居, 高齢者世帯も多く, アドバンス・ケア・プランニングが決定しておらず, 医療が必要な時に, 今後医療はどうするのかが決まっていないため, 本人の希望, 意思決定支援が必要。</li> <li>経済的な問題も含め, セルフケアの向上, 家族への指導の向上が必要。</li> </ul>

### (3) 高齢者生活支援センター

質問分野	回答結果
<b>地域包括支援センター業務</b>	
総合相談業務	個別支援(ミクロ)と地域支援(メゾ, マクロ)との連動させることが難しい。その要因を分析し、何らかのシステム化が必要。
介護予防 ケアマネジメント	さわやか教室は無料で参加できること、他の圏域のさわやか教室であれば続けて参加できることから自主運営のグループ活動につながりにくい。
権利擁護業務	虐待対応、成年後見制度利用促進といったプログラムやメニューにとらわれず、真の意味で高齢者の権利を擁護するための実践が求められていると考える。今後は、認知症をはじめとする障害者の就労や地域での共生、意思決定支援など、広い視野を持って実践が求められると考える。
包括的・継続的 ケアマネジメント 業務	医療と介護の連携を強めていく必要がある。
その他	政策的、学術的視点もちろんながら市民の視点を中心に、何を達成すれば評価できるセンターか、評価指標を定めるべきではないか。
<b>地域支援事業</b>	
ひとり役活動推進 事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体的にどんな活動が、どこでできるのかを住民に周知する必要がある。</li> <li>・ 「役割づくり」という観点から事業を展開してほしい。</li> </ul>
介護予防・通いの 場づくり補助事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 費用だけでなくスペースの確保(空家の利用や空き地の有効活用)もバックアップしてほしい。</li> <li>・ 助成期間が2年間なので、その後の資金繰りに不安を感じるという声があがっている。</li> </ul>
生活支援体制整備 事業	地域支え合い推進員としての仕事に対し、十分な時間を割り当てることができるかどうか課題。
介護相談員派遣 事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小地域福祉ブロック会議など、地域住民の協議の場で「要介護者の代弁者」として意見を述べるような機会があると良いと思う。</li> <li>・ 第三者の方が、利用者の方の話を直接聞き、行政、サービスとの橋渡しをしてもらえるしくみは風通しもよくなり大切だと思う。</li> </ul>
<b>介護予防教室</b>	
運営方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 無料で参加できるため、キャンセルも多い。低価格であっても有料としてはどうか。</li> <li>・ 自主活動グループの担い手を募集し、行政が運営方法などの研修を行っている自治体もある。</li> </ul>
現在の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 優先的に場所(拠点)の確保だけでも行政主体で行ってほしい。</li> </ul>
<b>住民主体の介護予防</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市がいきいき百歳体操をPRし市民に認知してもらおう。</li> <li>・ 行政職や専門職のボランティアの推進が必要。</li> <li>・ 小学生の頃からの教育で、地域で自主的に活動することを教える。</li> <li>・ 自主グループ作りの担い手育成の研修を行う。</li> <li>・ トレーナー費用の補助。(トレーナー派遣事業の期間が終わると、費用が高くなり継続出来ないため)</li> </ul>

地域ケア会議	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーション専門職による訪問指導を受けられる仕組み作り。</li> <li>・会議開催にいたるまでは、さまざまな準備が必要であり、十分な時間をさくことが難しい。</li> <li>・気軽に開催できる地域ケア会議を目指しているが、なかなか敷居が高く、開催数が少ない。</li> <li>・ポジティブプランの感覚を養えるよう、研修なども必要。</li> </ul>

#### (4) 芦屋市ケアマネジャー友の会

質問分野	回答結果
医療・介護連携	
医療・介護連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市は市域が狭く人口規模も小さいから、介護支援専門員をはじめとする関係者も顔の見える関係性になる事が比較的容易である。一部の関係者はそのような関係性を持っていても、それは個人の関係性においてであって、システムとして、組織ごとの関係性が十分できているとまでは言えない。</li> </ul>
認知症初期集中支援チーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期発見・早期対応を目指しているが、現実的には難しく、把握した時にはすでに重症化しているといったケースがある。</li> <li>・認知症初期集中支援チームの役割について関係機関と共有する必要がある。</li> <li>・対象となる認知症の高齢者を発見するための周知啓発については、地域包括支援センターだけで行うのではなく、認知症地域支援推進員や地域支え合い推進員とともに、認知症初期集中支援チームとも連携をとりたい。</li> </ul>
認知症の方へ支援	
芦屋市ケアマネジャー友の会 (回答者)	<p>居宅介護支援事業として、認知症支援について出来ることと言えば、認知症の方への支援が一体どのようなプロセスをもって展開されているのか等の具体的なイメージづくりや、要介護認定を受けた認知症の方の家族支援についてなど、実際の介護保険の現場での視点を施策や関係者への提案として意見を出すことが重要。</p>
地域住民	<p>まだまだ認知症という疾患の病気としての知識や、それによって生活がどうなっていくのか、どんな支援が受けられて、何があれば在宅生活が継続できるのか、と言った事に対する情報が行き届いているとは言えない。一度講座を聞いたからおしまいではなく、定期的にそのような学習の場を住民中心に持ってもらい、疾患に対する不安や恐怖を少しでも減らすような工夫が必要である。誰でもがなりうる病気であること、日々の暮らしの中の工夫で、予防もできるし、生活の支障も減らすことが出来ること等、具体的なプラスのイメージを持ってもらう事が必要である。</p>
介護サービス事業者	<p>困難事例というひとくくりでとらえるのではなく、認知症ケアの持つ奥深さを探求し、出来れば、事業者連絡会等の場を用いて、サービス種別を問わない専門職間の事例検討会や、ケース検討の場(地域ケア会議等含む)があると、質の向上に貢献できるのではないかと。各事業所内でのケース検討を定期的に行う事もアセスメント力向上には欠かせない。</p>
医療機関	<p>以前に比べると増えたが、認知症の確定診断をしていただける医療機関を増やし</p>

	てほしい。認知症の専門医と言われる医師の確保を希望する。
行政	行政機関の役割は、施策の動向やその要因分析など、少し先の今後を見据えた現状の分析が出来る事であると考え。単純に認知症の人の数が増えた、減ったと言った事は事実でしかなく、それらの数字の意味することは何か、要因は何が考えられるのか等、より広い範囲での課題整理やそれを基にした今後の方向性を提言すること、それを施策に生かす事が出来るのが行政の役割だと考える。
認知症地域支援推進員	一般市民の方で、キャラバンメイトのリーダー的な役割の方々や、それらの方と一緒に動いていただける保健師や、看護師など、地域包括支援センター外部への配置も検討する必要があると考える。
高齢者生活支援センター	介護保険につなぐにせよ、つながらないにせよ、支援の最初から最後を見渡す位置に立っている支援者である。地域ケア会議を適切に開催して、それらの時間軸を意識した視点を持って、幅広く支援関係者を繋ぎ、個別支援の適切なフォローをしていくことも大切な役割である。
地域ケア会議	
	総合事業が始まり、地域の中での役割や活動、社会参加と言った事が注目を集めるようになり、高齢者の生活の多様性等、視野を広げる必要性が認識され始めている。自立支援に資するケアプランと言った事を、単なる機能向上の概念だけでとらえる事がないようにすることが必要だと思います。それが、多くの関係者の共通理解になることが出来れば、開催の意義も見えてくる。
総合事業	
	多様な年齢の人が関わることが、高齢者の活動の活性化には必要。

#### (5) 居宅介護支援事業所

質問分野	回答結果
医療・介護連携	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 往診や緊急対応、看取り対応で連携が必要。</li> <li>・ お互いの役割は気軽に相談できること。それには、お互いが顔の見える研修が必要。</li> <li>・ 終末期の方でも在宅で看取りができるよう、夜間も対応したり、オピロイドのコントロールにたけたドクターが増えるととても心強い。認知症専門医が市内に在籍していると、受診につなげやすい。</li> </ul>
住民主体の介護予防	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歩いていける距離に、開催している場があること。</li> <li>・ 地域の自治会やマンションの管理組合に働きかける。</li> <li>・ 住民の中でリタイアした専門職に、地域の中でその力を発揮してもらおう。</li> <li>・ 体操の動画を施設や居宅事業所へ配布して自宅でも出来るような取り組み。(ヘルパーや家族と一緒に出来る)</li> </ul>

地域支援事業	
ひとり一役活動推進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動内容の具体例があれば、メージしやすい。</li> </ul>
介護予防・通いの場づくり補助事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>費用の助成のみでなく、活動者が専門的な指導を受けられる仕組みが必要。</li> <li>補助金は必要と思われる。大きな団体や事業所などではなくて地域住民にももう少し情報を広めては(広報)。大規模マンションの集会室の提供や個人の家や空き家など活用したい人は多いかもしれない。</li> <li>場が増えることにはとても期待する。場所や日時などリアルタイムに把握できるシステムの構築に大いに期待する。</li> </ul>
生活支援体制整備事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域資源の見える化、開発に期待したい。資源として何が必要であるか、何が不足しているか、実態調査が必要であると思う。ADLが高い認知症の方の活躍できる場が必要。</li> </ul>
介護相談員派遣事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護相談員の役割が定着し、「聴いてもらえるから嬉しい」などの声がよせられている。また、改善にもつながっているときいている。</li> <li>「介護相談員が何をやる人かよく分からない」という利用者もいる。</li> </ul>
認知症サポーター養成等事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の広がりは実感しているが、地域住民の中にはまだまだ偏った知識、認識の方が多いと感じる。</li> <li>地域や企業などで多くの方々に認知症についての理解を深めて欲しい。今後もますますサポーター養成が必要となる。他人事ではなくて自分や家族のためにも知識を深めていただきたい。</li> <li>認知症の知識のあるボランティアの方が関わっていただければ、認知症の方の見守りもお願いしたい。</li> <li>サポーターは多くいる。オレンジリングを持っている人も多く見かけるが、講座受講後に活躍できるシステムづくりが進んでいない。</li> </ul>
在宅生活継続のための支援	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活全般を把握できる状況があり、家族に必要な支援も含め、日常生活が送れるよう、多種多様な内容を提案できるサービス。</li> <li>家族の介護負担が軽減できるような支援サービス。</li> <li>独居、高齢者世帯の方が在宅生活を行うには介護保険サービスのみではまかなえず、比較的高額な自費サービスを利用して在宅生活を継続している。</li> </ul>

#### (6) 芦屋市介護サービス事業者連絡会

質問分野	回答結果
医療・介護連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>病院の地域連携室と退院に向けての連携を行う事が多いが、各病院によって差があるように思う。</li> <li>在宅医療との連携は良好で環境的に恵まれている。</li> <li>十分ではありませんが、芦屋市内での研修や担当者会議を通じて意見、情報交換</li> </ul>

	<p>などはできていると感じる。ただし、必要な時に連携が図れているとは思えない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 他の自治体に比べれば双方の関わりも多く、顔の見える関係性ができているため必要な際の連携がとりやすいと感じている。しかし、全ての事業者がそうであるかと言われれば、一部に偏った対応となっているようにも感じるため、十分とは言えない。</li> <li>• 求める方にはきちんと道筋ができているが、求めない方や求め方を知らない方に対するアプローチが課題である。</li> <li>• 往診可能な医師との連絡はスムーズに行われているが、地域連携室との情報交換が上手くいかないことがある。</li> </ul>
<b>住民主体の介護予防</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• リハ職の派遣を各家庭ごとに早期の段階から行う。</li> <li>• リーダーになる方を養成して、自分たちで取り組める仕組みを作る</li> <li>• 各自治会、老人クラブ等での活動に繋げる。</li> </ul>
<b>地域支援事業</b>	
ひとり一役活動推進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>• もともと当施設にボランティアで来ていた方が登録をし、今も継続して来ている。ただ、新たな登録者が来られていないため、まだ知らない人も多いように思う。</li> <li>• さまざまなニーズに対し、一人ひとりが「できること」で参加し、“やりがい”お互い様”と精神的、身体的に支援することで身近な地域活動が出来る。</li> </ul>
介護予防・通いの場づくり補助事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なかなか地域性があるって、参加困難なところはあるが、予防的には良いと思う。</li> </ul>
生活支援体制整備事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域のニーズを引き出し、つなぐための機会になれば良いと思う。町内会などを通じて、参加、進めるのも良い。</li> <li>• 良い取り組みではあるが、事業内容や生活支援コーディネーターの役割が、十分に周知されていないように思う。</li> </ul>
介護相談員派遣事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 過去に利用したことがあるが、相談員となる方の負担が大きいと感じる。</li> </ul>
認知症サポーター養成等事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ぜひ事業所を会場として活用してもらい、事業所周辺の地域の方にピンポイントで認知症への理解を広げていきたい。</li> <li>• 養成講座を受講された地域住民の方の活動の場やネットワークが必要だと思う。</li> <li>• 認知症を知っていただくきっかけとしてはとても重要で、特に小中学生など若いうちから知ってもらい、関わりを持っていただく機会があるとよいのではないかな。</li> </ul>
<b>連携・ネットワーク</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 現状なかなか進んでいないように思う。要になる機関や人材の育成支援が必要ではないか。</li> </ul>